



チャイム前着席 詫中生の習慣に

5月の生活委員会と文化委員会を中心とした取組「Takuchu Target」～授業開始2分前着席～の結果が出ました。

授業開始2分前が近づくと、どのクラスでも委員が「座って～」と声をかけ、ほとんどの人がその呼びかけに応じて着席していました。最初は「やらされている感」が顔に表れていた人も、毎日繰り返していくうちに、そうすることが当たり前になって、そうしないと何か落ち着かない。これが習慣です。

よい習慣が身に付けば、人生が変わるとさえ言われています。勉強も部活動も、一定期間続けることでしか成果はあがりません。長く続けるためには、しなければならないことを習慣にしようのが最もよい、最も確実な、そして最も楽な方法なのです。

ニューヨークヤンキースのイチローは、試合前後の練習で必ずすること（ルーティーン）を決めて、それを20年近く一日も欠かしたことがないそうです。このルーティーンこそが、イチローが大きなけがをせず4000本安打を達成できた理由と言われています。球場に着いたら、毎日必ず同じメニューを同じ順番で行ってから試合に臨む。試合後は、楽しそうに食事に出かけるチームメイトに惑わされず、黙々とウエイトトレーニングや道具の手入れをする。偉大な選手の仲間入りをした今も、毎日行っているそうです。

成績アップのカギを握る授業を大切にするために、チャイム前着席を詫中生の習慣にしましょう。

1年	1位：2組
	2位：4組
2年	1位：2組
	2位：1組
3年	1位：3組

限界は心の問題だ。人間は限界までやっているとでも思っている、20%～30%の余力は残っている。誰もが不可能と思っていることも、誰かができると、次々にそれに続く者が現れる。陸上競技で、「1マイル（約1.6 km）4分の壁」という言葉があった。当時、1マイルの中距離走では、4分を切ることは不可能と言われていた。実際、32年間、4分を切るランナーは現れなかった。ところが、32年ぶりに1人のランナーが3分台の記録を出した。すると、この年だけで何と30人以上のランナーが3分台の記録を出したのだ。

(サンデーモーニング 2011. 11. 21)

こんなところも見られているんだ！驚いた思い出



左の写真は、昨日靴置き場で見かけたものです。すっかりかかとの部分が折れ曲がっています。この靴を見たとき、あることを思い出しました。

以前勤めていた観音寺市内の中学校で3年生を担当していたときの事です。事情があって、岡山県の私立A高校を受験した男子生徒がいました。その高校は各教科の筆記試験の点数はもちろん、面接試験の様子も文章にして中学校に返してくれました。（長い教員生活でも、面接試験の様子を文章にして教えてくれたのは、この高校だけです）

それを読んだ瞬間、「ええ～！」と声をあげてしまいました。今でも忘れません。文章の最後に書かれていました。「靴のかかとにラインあり」

すぐ、靴箱に走りました。かかとは、きちんと立っていましたが、確かに2本の縦線がくっきりと両足に入っていました。こんなところも見られているんだ。うなりました。

この日は、公立の入試のちょうど2ヶ月前でした。「先生、公立の入試には新品の靴をはいていくわ」「ちょっと待って。中学校生活が終わる5日前に、新品の靴をはいていくんか？お金ももったいないけど、ごっつ不自然でないか？卒業したらはかんのに」「それもそうじゃな」

その日のうちに、彼は新品の靴を買ってもらい、2ヶ月間、はき古しました。（家でも、何をするにも、いつもその靴をはき続け、少しでも古く見せようと意地になっていました）もちろん、絶対にかかとは折らずに。